



## 川崎中ロータリークラブ会報

KAWASAKI NAKA ROTARYCLUB/FOUNDED 1972.7.15

【2022-23 年度 地区方針】 「ロータリーの再生」 —新たな挑戦—

会 長 島 利夫  
副 会 長 富岡 昭一  
幹 事 川口 禮敬  
S A A 片岡 英之  
会報委員長 叶野 聡

2022～2023

第 2360 回例会

2022 年 9 月 27 日

例会日 毎週火曜日 12 時 30 分点鐘  
例会場 川崎市中原区小杉町 3-10  
ホテル精養軒  
TEL(044)711-8855  
事務所 川崎市中原区小杉町 3-428  
山協ビル 402 号 TEL(044)722-  
4331 FAX(044)722-6334  
E-mail: k-naka@galaxy.ocn.ne.jp  
URL: <https://www.kawanaka-rc.com>

### 例 会 報 告

開会点鐘 島 利夫会長  
司 会 片岡 英之会場監督  
合 唱 ロータリーソング  
「それでこそロータリー」  
クラブソング 「拓け未来へ 広げる友の輪」  
お客様紹介 大友 徹副幹事  
宮田 豊様 郷土史家

### 今後のプログラム予定

| 10 月 11 月 | プログラム        |
|-----------|--------------|
| 10 月 11 日 | 記念式典リハーサル    |
| 10 月 18 日 | 創立 50 周年記念式典 |
| 10 月 25 日 | 休 会          |
| 11 月 1 日  | 休 会          |

### 出 席 報 告 朝倉 和信出席委員長

| 会員数  | 出席数  | 欠席数               | 出席率    | 前々回訂正出席率            |
|------|------|-------------------|--------|---------------------|
| 42 名 | 35 名 | 7 名<br>対象外<br>(5) | 94.59% | 欠 5 名<br>対象外<br>(4) |
|      |      |                   |        | MUO 名 97.57%        |

【本日の欠席者】 三木 治一会員 小林 敏伸会員  
長谷川俊雄会員 奥村 香 会員 佐川 陽子会員  
堀一 慶明会員 志村 修司会員

### ニコニココーナー 齊藤かおり副会場監督

島 利夫会長: 宮田豊様 16 世紀に作られたという歴史ある「大楽院本尊」についての卓話楽しみにしております。よろしく願います。  
川口 禮敬幹事: 宮田豊先生卓話ありがとうございます。拝聴させていただきます。もうすぐ 10 月ですネ。  
富岡 昭一副会長: 宮田豊様、本日卓話よろしくお願い致します。  
朝倉 和信会員: 宮田先生、卓話よろしくお願い致します。  
渡邊 新治会員: 宮田様、本日は卓話よろしくお願い致します。楽しみにしています。

|    |       |           |
|----|-------|-----------|
| 合計 | 5 件   | 5,000 円   |
| 累計 | 136 件 | 181,000 円 |

### 会 長 報 告 島 利夫会長

1. 地区よりロータリー財団セミナー開催のご案内が届いております。日 時: 10 月 13 日 (木) 15:00～17:30 場 所: メモワールプラザソシア 21 4F「ウイング」
2. 地区より RI 会長代理ご夫妻歓迎晩餐会登録のご案内が届いております。日 時: 11 月 11 日 (金) 17:45～19:30 場 所: ヨコハマグランド インタコンチネンタルホテル 3F

- ボールルーム出席対象者:会長・幹事
3. 地区より世界ポリオデーイベント フォトコンテストのご案内が届いております。テーマ:ポリオ根絶の想いを撮影したシーンやショットを募集締 切:10月31日(月) 詳細は回覧致します。
  4. 地区より RLI(ロータリーリーダーシップ研究会)パートⅡ開催のご案内が届いております。日時:10月16日(日)9:00~17:00 場 所:聖光学院中学校高等学校 詳細は回覧致します。
  5. 地区より「世界ポリオデー」イベントの開催のご案内が届いております。日 時:10月23日(日) 13:00~16:00 場 所:JR 桜木町駅前広場 詳細は回覧致します。
  6. 地区より「世界ポリオデー」イベント参加と映画「向田理髪店」鑑賞のチラシが届いております。ポスティングしております。
  7. 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より、ハイライトよねやま 270 が届いております。回覧致します。
  8. 社会福祉法人神奈川県共同募金会より、赤い羽根共同募金へのご協力のお願いが届いております。  
(当クラブは、バッジにて協力)
  9. 社会福祉法人 川崎愛児園より広報誌が届いております。回覧致します。

## 幹 事 報 告

川口 禮敬幹事

1. 例会変更  
川崎 9月22日(木) 休会  
10月13日(木) 休会  
11月3日(木) 休会
2. 会報受領 川崎中原 RC 川崎北 RC 回覧致します。
3. 本日例会終了後、クラブ協議会を開催致します。関係各位のご出席をお願い致します。
4. 次週 10/4 は例会終了後、理事役員会を開催致します。関係各位のご出席をお願い致します。
5. <10月の予定>  
10/4 通常例会(50周年リハーサル)  
例会終了後、理事役員会  
10/11 通常例会(50周年リハーサル)  
10/18 創立50周年記念式典・祝賀会  
10/25 休会

## 卓 話

紹介 渡邊 新治会員



### 略 歴

国学院大学を卒業後、川崎市役所に勤務。体調不良となり、市役所を退所。川崎郷土研究会の会員として、川崎 特に中原区を中心にその成果は、『川崎研究』に発表されています。また、『原家四百年の人脈』は、原家の切望により、原家の人々と長い年月をかけて完成させました。幅広く地域の研究をされている方です。



郷土史家 宮田 豊 様

# 川崎研究

第 57 号

2019



川崎郷土研究会



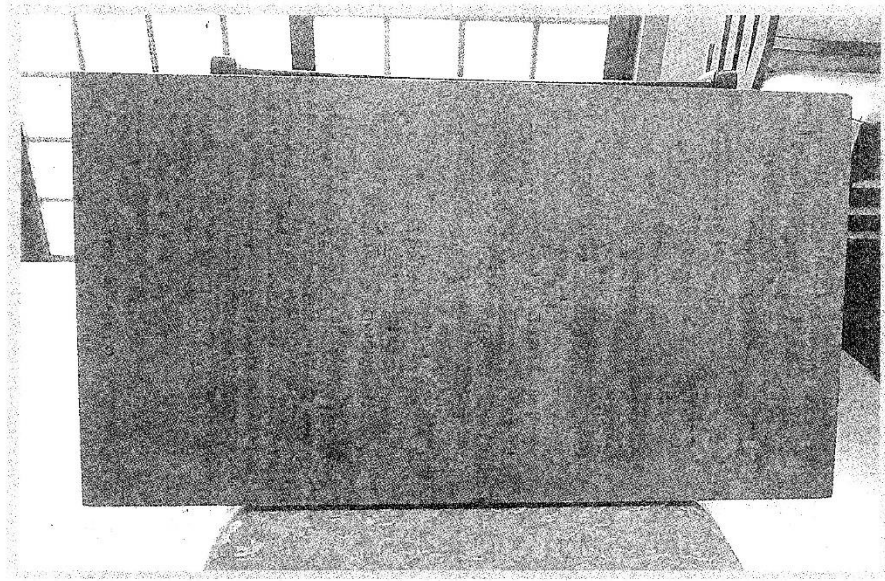
表紙写真 川崎市重要歴史記念物・釈迦如来座像

川崎市中原区にある大楽院所蔵の木像。

胎内に墨書の文字が以前はありました。

詳しくは、本号宮田豊氏の論文を参照して下さい。

(写真撮影 川崎郷土研究会 高橋和一)



釈迦如来座像の胎内墨書銘と同じ内容の文字が記載されています木の板

木像「釈迦如来座像」の胎内墨書は木像の修復過程で失われましたが、その墨書の内容は木の板に記載されています。

胎内墨書銘の一部

西明寺  
三光院  
正覺院  
妙坊内女  
左衛門内女  
内女  
原半九郎  
澤清衛門  
三橋惣四郎  
斎藤右衛門  
龍助  
孫左衛門  
鈴木新左衛門  
左衛門  
源太郎  
作鎌倉大佛所  
江刑部少輔 別當光房  
權大僧都法印長鑑  
大平右衛門  
近江守  
周防左京亮  
中地山城守  
所願成就皆令滿足  
同小佛所下野  
類  
鎌太因幡守  
同對馬守  
同縫殿助  
同  
同  
同源太左衛門

## 武州瀬多谷ノ御所氏朝に仕えた周防氏とその系譜

—越前・福井藩士「周防氏」の由緒書と藩士履歴から—

宮 田 豊

### I. 上丸子・大楽院の仏像と胎内墨書銘

川崎市中原区上丸子八幡町 1522 番地にある日吉山大楽院神宮寺は、地元では院号の「大楽院」で知られる真言宗豊山派の寺院である。その門前脇に立てられた説明板は、昭和 61 年（1986 年）に川崎市教育委員会が寺側の理解を得て設置し、同院（同寺）所蔵の文化財を紹介している。設置からすでに 30 有余年が経過するが、その説明板には次のように記されている。

#### 「大楽院の文化財

当院は、真言宗豊山派に属しています。当院所蔵の木造・釈迦如来坐像は、寄木造、玉眼嵌入で、手を禪定印に結び、室町時代（十六世紀後半）の制作と考えられています。釈迦如来坐像の胎内からは、武蔵国の世田谷と蒔田を領有した吉良氏朝（一五四三～一六〇三）の家臣名等を記した墨書銘があり、室町時代後期の武将の信仰や吉良氏を研究するうえで、貴重な資料となっています。川崎市教育委員会は、この仏像を、昭和六十年十二月二十四日、川崎市重要歴史記念物に指定しました。昭和六十一年十月 川崎市教育委員会」（仏像正面の写真掲載）

また、中原区仏教会編集・刊行の『中原区内寺院の栞』（平成 21 年、第二版）には、次のように記されている。

#### 「本尊 十二面観世音菩薩」

「由緒 当山は、日吉山神宮寺と号し真言宗豊山派で奈良県長谷寺の直寺で、大同四年に恒貞親王（淳和天皇五十三代在位八二三～八三二皇太子）の御次子恵恒僧都の開山と伝えられている。以来寺勢に変遷あり延宝五年に範誉和尚の代に中興された。新編武蔵風土記に依れば、本堂の他にいくつかの堂宇を有し現在以上の規模であったようである。近年堂宇老朽化が著しくなり昭和四十二年より堂宇の改修に着手し平成十二年に本堂、客殿齋場、庫裡書院、手水舎、霊安室等全て完成した。（中略）上丸子唯一の寺院として多くの参詣者を集めている。そして、本堂内右側の川崎市の指定文化財である木造釈迦如来座像は、高さ二メートル余の寄木造りで室町時代末期に吉良一族の所願成就皆令満足を願って、長鑑という鎌倉仏師に命じて造立された像である。（後略）」

以上の説明から、大楽院の本尊は「十二面観世音菩薩」であり、川崎市重要歴史記念物となっている「木造釈迦如来坐像」が大楽院所蔵となった背景には、次

のような歴史的事情があったようである。

この仏像を調査した早稲田大学の萩野三七彦博士が後に執筆した『吉良氏の研究』(名著出版、昭和50年)の中で、「武蔵の吉良氏について」の末尾に、次のとおり述べられている。

「廃仏毀釈が、一般的に人々の信仰を奪い、宗教に対して無関心にして仕舞ったのである。誠に廃仏毀釈当時にはこの釈迦像も始末に困って日枝神社から大楽院へ運び込んだものであったが、寺の方では本尊でもないこのような巨像の保存には困惑して、心ならずも朽損に任せて来たに相違ない。ましてやこの仏像にこのような史実が秘め、由緒があろうとは誰も知らず、また美術的にも関心が誘われずに今日に至ったものである。しかしこの仏像の発見によって、吉良氏の史料に新しいものが加わったことは注目される。」

このように大楽院所蔵の古仏は、長い間朽ちた状態で同院に保存されてきたが、その胎内に文字が墨書されていることが判明し、川崎市と世田谷区の合同調査が実施されたのは、昭和36年秋のことであった。この辺りの事情と調査の概要は、昭和37年刊行の『新修世田谷区史』(上巻)の中で、「大楽院の仏像」と題し紹介されている。

## II 墨書銘が「戦国遺文」となる

その後、大楽院の仏像の胎内墨銘は、古文書学や歴史学の専門分野では、大楽院所蔵の「大楽院仏像胎内墨書銘」と称され、後北條氏編の戦国遺文第四一一六号文書として扱われる。その第五巻の編者は、『小田原衆所領役帳』や『後北條氏の研究』などで知られる杉山博氏と後北條氏や関東戦国史の研究で知られる下山治久氏である。続く第六巻は1995年に発行され、第一巻から第六巻の補遺文書に関わる「人名」、「地名」、「寺院名」の索引編である。編者は先の下山治久氏と『戦国大名北條氏の領国支配』などで知られる黒田基樹氏である。

このように、大楽院所蔵の仏像胎内墨書銘は、戦国遺文第四一一六号の整理番号が附された古文書として、後北條氏編第五巻に掲載されたのである。

ただし、第六巻索引編の「寺院名」によれば、大楽院の第四一一六号文書に登場する地元の三寺院のうち、「西明寺」には(武蔵カ)とあり、また「正覚院」は(未詳)とし、「三光院」も(未詳)とある。このうち、江戸後期の地誌『新編武蔵風土記稿』の橘樹郡稲毛領小杉村の条に「西明寺」と「正覚院」の記述がある。また「三光院」は所在地不明だが、小杉村の中かその近傍であった可能性が高い。

## III 世田谷御所と蒔田御所の父子二代

「吉良氏朝」については、世田谷と蒔田を領有した「武蔵の吉良氏」という氏

族の人であるが、姓氏家系研究家として知られる太田亮氏の『姓氏家系大辞典』全三巻(角川書店、昭和38年)の第二巻に、かなり詳しい記述がある。

「第8項 世田谷家

武蔵国荏原郡世田谷城(世田谷新宿)は吉良義継の六代治部大輔治家・始めて築く。吉良氏家譜に治家\_\_\_\_頼治\_\_\_\_頼氏\_\_\_\_頼高\_\_\_\_数(政力)正\_\_\_\_成高(鎌倉公方持氏の時、世田ケ谷を給はる。よりて世田ケ谷殿と云ふ)\_\_\_\_頼康\_\_\_\_氏朝\_\_\_\_頼久とあり。而して薪編風土記に「この所は、昔吉良家居城ありし地にて、天文弘治の頃、家風さかなりし時は、世に吉良の御所と称せり。されば今も里人御所跡とてあがめおけり。吉良系図に治部大輔治家・はじめて武州世田ケ谷により、後上州鮑間に移り住せりと。衾村東光寺の古文書にも、治家・この寺を建立せしよしみゆれば、治家が世に、此処に住みはじめしは疑ふべくもあらず。この人応永二十四年四月十日逝けりといふ。或は延元元年十一月七日ともいへり。そののちの事蹟はつまびらかならず。治家より六代の左京亮成高は、この城におりしよし系図にみゆ、これ天文十五年に逝去せし人なり。その子左兵衛佐頼康、其の子氏朝に及ぶまで、この城にありしとみゆ、これ天正の頃のことなるべし。其の後世も移り変りて、御入国の時廢せられしかば、長く此の地を伊奈家に賜ひ、それより後は、林となりて樹木のみ生ひしげり、今に至りても尚然り、」と見ゆ。又世田谷私記に「荏原郡菅刈莊世田谷郷は、往古吉良家の領地なり。抑も吉良家と称するは足利家の嫡流にて、其の頃何ほどの貫高にや、今に至りてわかり難し。土俗の言伝へには、十八萬石といへど非なり。北條氏綱の時に、世田谷頼康卿をも聳とし、弥々関東に猛威を振ひけるが、天正十八年亡び、此の時世田谷氏朝は上総(下総カ)國生實に逃れ給ひけり」と。世田谷八幡宮棟札に、天文十五年源頼貞とあるは、頼康前名にやと云ふ。」

「第9項 蒔田の吉良家

蒔田御所とも云ふ。新編風土記、久良岐郡蒔田村條に「古跡館蹟、東南の方にあり。土人城山と呼び、或は清水台とも云ふ。又此の内を別て原花畑など唱へり。吉良左兵衛佐頼康の居蹟なり。広二町余、今都べて陸田となれり。頼康は右京大夫政忠には孫にて、左京大夫成高の子、北條左京大夫氏綱の婿なり。父成高は上州鮑間郡に住せしが、関東の公方より荏原郡世田ケ谷に住し、後当所に移る、是を蒔田の吉良とも称し、又蒔田の御所とも云へり。小田原記に『永禄十二年、武田信玄・小田原出張の時、信玄片倉神大寺山をすちかひに、かたひらと云ふ所に出勢す。此の近所蒔田と云ふ所に、吉良左兵衛佐殿居住なり。左兵衛佐殿は、其の頃大橋山城守、北見関加賀守などを相具して、小田原に在城あり。此の吉良殿

は氏康の御妹婿也。(按ずるに、同書亦氏康女に、蒔田殿とありて、其の細注に  
せたかいの御所、蒔田殿の御前と記す。爰に云ふ所と齟齬せり。北條家譜にも、  
氏綱の女・蒔田御所の室とあれば。氏康の女を頼康の室とするは誤なり)。多目  
周防守・其の頃、青木と云ふ所に居住したりけるが、まえだ殿の御所を焼かせて  
は、甲斐なき命生きて専なしと、我がまえを捨て、栗田藤巻云ふ同心共を召つれ、  
蒔田を守護す。輕部豊前守折節蒔田にありしが、各吉良殿屋敷の前なる山に上り、  
鉄炮をしかけ、待ちければ、敵是へも来らず云々』とあり、或説に此の旧跡・正  
保の頃までは正しく在りしが、何の頃かこぼれしと云ふ。頼康は永禄四年十二  
月五日卒す、法名勝光院脱山浄森大居士と云ふ。村内勝國寺に葬せり、」と見ゆ。  
相州兵乱記に「永禄元年四月中旬、関東公方左馬頭義氏朝臣、鶴岡八幡宮へ御参  
詣あり。吉良左兵衛佐・御唐笠を仕る」と。而して、蒔田系図に「貞家(左京大夫)  
\_\_\_\_\_治氏(中務)\_\_\_\_\_治家(飽間治部大夫)\_\_\_\_\_頼治(兵部大夫)\_\_\_\_\_頼氏  
(左京)\_\_\_\_\_頼高(右京)\_\_\_\_\_政正(同)\_\_\_\_\_成高(世田谷吉良と称す)\_\_\_\_\_  
頼康(正四位下、左兵衛督)\_\_\_\_\_氏朝(左兵衛督)\_\_\_\_\_頼久(左兵衛督、号蒔田)」  
と見ゆ。」※保土ヶ谷本陣輕武家は輕部豊前守の末裔。輕部タマ(増田タマ)は  
昭和天皇幼年期の乳人(めのと)の一人。(『昭和天皇実録』第一卷参照)

#### IV 吉良氏朝の主な家臣六人とその後

大楽院の仏像胎内墨書銘に書かれている家中衆のうち、上級の家臣と思われる  
人名として次の五人(あるいは六人)がいる。

「江<sup>■</sup>刑部少輔・大平右衛門<sup>■</sup>・<sup>■</sup>近江守・周防左京亮・中地山城守」・「<sup>■</sup>  
民部少輔」。但し、<sup>■</sup>は判読不能文字だが、他の史料から復元ができよう。

このうち、「江戸刑部少輔(頼忠)」と「江戸近江守(頼年)」は同族であるが、  
石井至毅の『大蔵村旧事考・喜多見旧事考』に載る「木田見系図」によれば、  
「江戸刑部少輔頼忠」の附記に、「天正十八小田原陣ノトキ江戸ニ在、仕世田谷、  
母伊丹兵庫頭妹、天和五年八月十日死、年九十、法名玩極院殿与楽」とある。

なお、「江戸近江守」は同系図に、頼忠の子として「朝忠」を載せ、「江戸摂津  
守」或いは「近江守トモ」とあり、その附記に「母者間宮主水介女芳岸院、元和  
五八ノ一死、仕世田谷吉良氏朝ニ、小田原陣ノトキ豆州下田城ニ在、慶長十七年  
十一月七日卒、法名正諾院法心、一説ニ近江守ノ子ナリト云、」とある。そ子孫  
の喜多見若狭守重政は五代將軍徳川綱吉の側用人の一人となり二万石の大名とな  
るが、その後失脚し除封された。柳沢保明(後に吉保)が登用される以前である。

「大平右衛門尉」の子孫は、貴重な『大平家文書』を伝えている。「中地山城  
守」の消息は不明なるも、あるいは何れかに仕官したとも考えられる。



さらに、荻野三七彦博士の『吉良氏の研究』には、「民部少輔」が付け加えられている。この判読不能の一文字が、多摩川右岸流域に多い「原」名字であるならば、中原街道が通る上小田中（武蔵の吉良氏の菩提寺である泉澤寺）・小杉（大楽院の仏像胎内墨書銘に登場する西明寺、正覚院、三光院？）・上丸子（丸子の渡、大楽院と日枝神社がある）と宮内（世田谷方面との通路、天文六年銘札と天正四年銘札がある十二神将立像胎内墨書銘札を所蔵する常楽寺）、そして大谷戸の原浩子家が所有する厨子の裏面にある墨書銘の「吉良御所」の文字など、世田谷御所の吉良氏との歴史的な関わりを感じるのである。「周防左京亮」については、大楽院の仏像胎内墨書銘にのみ見える。別に「周防上野介」が吉良氏朝家臣にいて数点の古文書が知られる。周防上野介は周防左京亮と同一人物か。

#### V 福井藩士となった周防猪左衛門

昭和 63 年刊行の『福井市史—資料編 4 近世二』に、福井藩士の由緒書が全文紹介されている。

「△ 周防 忠昌公御代元和五己未年 於越後被召出年号不知

●原長兵衛吉清 本国伊勢 生国不知 姓平 本名周防

先祖周防宮内少輔政佐、其子周防日向守佐綱、其子周防佐渡守政綱、其子周防上野介吉政代々古河公方家ノ臣ニテ、上野介吉政儀ハ古河高基卿ノ次男武州瀬多谷ノ御所氏朝ニ仕ヘ判物干今有之、其後小田原落去ノ後常州ニ引籠罷有原道春軒ト申候、原ノ称号ハ母方ノ名字ニテ候、其子原長兵衛吉清儀初仙石兵部少輔忠政ニ相勳、大坂御陣ノ節足輕召連相勳候由書付有之候、其後御家エ被召出候

忠昌公御代元和九癸亥年 家督被下 生国常陸

周防猪左衛門重吉

光通公御代万治三庚子年 家督被下 生国越前 道号楚雪

周防猪左衛門佐堅

吉品公御代元禄十六癸未年被召出

吉邦公御代享保元丙申年家督被下 生国越前

「当」周防七平佐賀」（※但し、原本は縦書であり、△●の記号がある。）

この由緒書に基づけば「周防氏」の家系譜は次のとおりである。

周防宮内少輔政佐\_\_\_\_日向守佐藤綱\_\_\_\_佐渡守政綱\_\_\_\_上野介吉政（原道春軒）\_\_\_\_  
\_\_\_\_原長兵衛吉清\_\_\_\_周防猪左衛門重吉\_\_\_\_猪左衛門佐堅\_\_\_\_七平佐賀\_\_\_\_

#### VI 新たな資料『福井藩士履歴』と周防氏

平成 27 年に福井県立文書館が同館資料叢書 11 として刊行した『福井藩士履歴』（3）に「周防氏」歴代の履歴が載っている。越前「福井藩」は、徳川家康の次

男結城秀康の子孫が藩主の家柄で、御三家に准ずる御家門の越前松平家である。法政大学教授の村上直氏が編者の一人として参画した『藩史大事典—第3巻』（雄山閣出版、平成元年）に掲載されている福井藩の「藩史略年表」によれば、

「貞享三年（1686年）三月六日、「（藩主の松平）綱昌改易、養父昌親（昌明と改める）新知二五万石拝領。藩士二〇〇〇人余浪人、残留藩士の給禄は半減となる。」とある。ただし、戸田茂睡の『御当代記—將軍綱吉の時代』（平凡社、東洋文庫、2009年）の記事によれば、「閏三月六日、松平越前守（綱昌）病氣乱氣之由、松平兵部大輔（昌勝）申上候ニ付、越前守所領被召上、一生之内貳万俵被下候、越前の城に廿五万石、養父松平兵部大輔に被下候」とある。筆者の戸田茂睡は歌論家であるが、江戸城中の動静に詳しい消息通の人物でもある。

この時の將軍綱吉の裁定により、石高は47万5千石から25万石に激減した福井藩は、多くの藩士が浪人となり、残留組の藩士は禄高が源じることになった。周防氏は、残留組で禄高は半知となり、200石が100石に減じている。

（貞享三年～明治四年）

周防伊左衛門\_\_\_\_伊左衛門\_\_\_\_伊左衛門\_\_\_\_長右衛門\_\_\_\_三右衛門（病死）\_\_\_\_  
長兵衛\_\_\_\_猪左衛門（喜三郎、長兵衛）\_\_\_\_謙介（平吉、養子）（明治時代）

以上、越前福井藩士周防氏の由緒等を紹介したが、思いがけなく北陸の福井県福井市に世田谷御所の吉良氏に関わる資料が存在していた。関東では今まで知られていないようである。さらに、平成27年に福井県立文書館が刊行した『福井藩士履歴』（3）に「周防氏」がある。今後の周防氏研究の進展を期待したい。

#### 【資料提供、支援協力等、敬称略】

福井県立文書館、（故）村上直法政大学名誉教授、上丸子大楽院、小杉西明寺、（故）宮田信子、原豊孝、原光代、原修一、横浜関内駅前・明治五年創業「天吉」店主原茂男、原 京、原広也、宮田茂、宮田悦子、原真也、原優美子、中村修三、中村敏子、津脇梅子、高橋清美、大場宏子、新丸子町・金子印房代表金子正行、金子恭子、金子スイ、新丸子東・堀生花店代表堀浩子、堀八枝子、新丸子東・善仁会丸子クリニック（人工透析科）池田正樹院長、A l o h a さおり自由が丘クリニック（内科、皮膚科、美容皮膚科）酒井紗織院長、東横イン武蔵中原駅前。  
〔追記〕吉良氏朝の「家印」の刻印（印文）は「諸願成就皆令満足」であり、大楽院の仏像胎内墨書銘にも「所願成就皆令満足」とみえる。また近年の研究では、実は今川氏流の堀越家に生まれ武蔵の吉良氏を継いだ人物という。鎌倉の関東公方家の末裔で下総古河に移徙した足利家の「猶子」となっていたものか。周防氏の由緒書からは、関東公方と武州世田谷の吉良家の深い関わりを思わせる。